

2026年6月30日 全7頁

Indicators Update

2026年5月鉱工業生産

輸送機械工業（除. 自動車工業）がけん引し、2カ月連続で上昇

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈

[要約]

- 2026年5月の生産指数は前月比+0.5%と、コンセンサス（同+0.6%、Bloomberg 調査）を下回ったものの、2カ月連続で上昇した。輸送機械工業（除. 自動車工業）がけん引したほか、無機・有機化学工業や石油・石炭製品工業といった業種では最近の減産からの反動で増産となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要などが国内生産の押し上げ要因となろう。ただし、中東情勢の緊迫による供給制約や当該地域向けの輸出の停滞などが、当面の間は下押し要因になり得る。
- 2026年7月7日に公表予定の5月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+0.6ptの116.7、一致CIが同+0.4ptの118.5と予想する。この予測値に基づく、5月の基調判断は機械的に「改善」に上方修正される。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年			2026年				5月	6月	7月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月			
鉱工業生産 コンセンサス DIR予想	+0.6	▲2.0	+0.6	+4.3	▲2.0	▲0.4	+0.5	+0.5 +0.6 +0.7		
生産予測調査 補正值(最頻値)									+3.7 +2.6	+0.0
出荷	+0.9	▲1.0	▲1.1	+3.8	▲1.5	▲0.9	+1.3	+0.6		
在庫	+0.1	▲1.9	+0.6	▲0.8	+0.3	▲1.8	▲0.3	▲0.6		
在庫率	▲1.8	▲0.1	+1.3	▲4.6	+2.0	▲0.7	▲0.9	+1.8		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】輸送機械工業（除. 自動車工業）がけん引、石油由来製品と石油製品は反動で増産

2026年5月の生産指数は前月比+0.5%と、コンセンサス（同+0.6%、Bloomberg 調査）を下回ったものの、2カ月連続で上昇した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中7業種が前月から上昇した。輸送機械工業（除. 自動車工業）（前月比+4.6%）では航空機用発動機部品（同+6.5%）などが増産となった。また、無機・有機化学工業（同+3.7%）や石油・石炭製品工業（同+9.1%）は、中東情勢の緊迫に伴う供給制約の影響で3カ月連続の低下が続いていた反動から、上昇に転じたとみられる。内訳を見ると、無機・有機化学工業ではポリエチレン（同+19.4%）などの石油由来製品が、石油・石炭製品工業ではガソリン（同+9.3%）などの石油製品が増産となった。

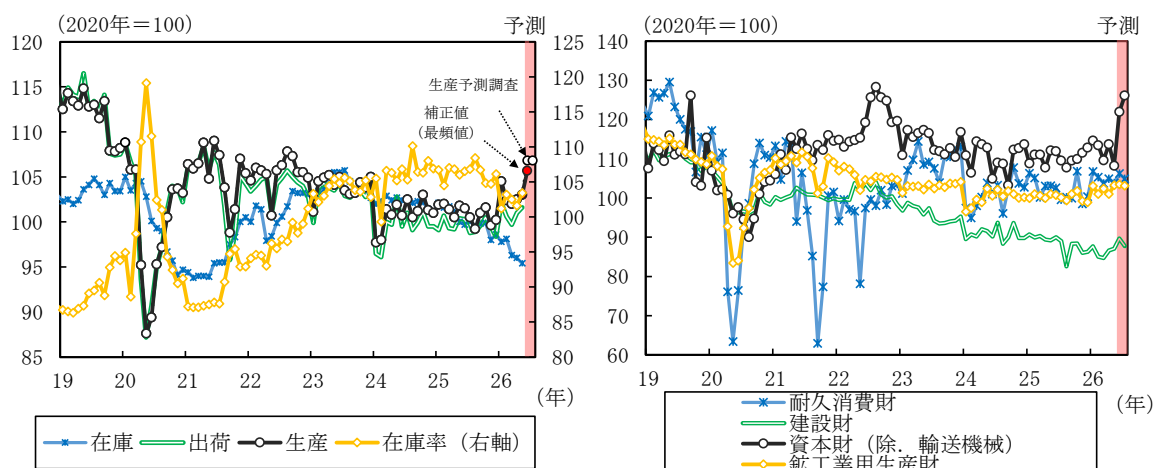
他方で、汎用・業務用機械工業（前月比▲6.2%）や電気・情報通信機械工業（同▲5.1%）、生産用機械工業（同▲3.6%）など8業種は前月から低下した。汎用・業務用機械工業では分析機器（同▲20.6%）などが、電気・情報通信機械工業ではノート型パソコン（同▲46.8%）などが減産となった。生産用機械工業ではフラットパネル・ディスプレイ製造装置（同▲33.3%）などが減産となった。

財別では、資本財（除. 輸送機械）（前月比▲4.8%）と耐久消費財（同▲1.0%）、非耐久消費財（同▲0.3%）は低下した一方、生産財（同+2.1%）と建設財（同+0.6%）は上昇した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月連続で上昇

2026年5月の出荷指数は前月比+0.6%と2カ月連続で上昇した。業種別では、自動車工業（同+9.2%）や石油・石炭製品工業（同+5.2%）など15業種中6業種が上昇した。財別に見ると、資本財（除. 輸送機械）と非耐久消費財、建設財は低下した一方、耐久消費財と生産財は上昇した。在庫指数は同▲0.6%、在庫率指数は同+1.8%だった。

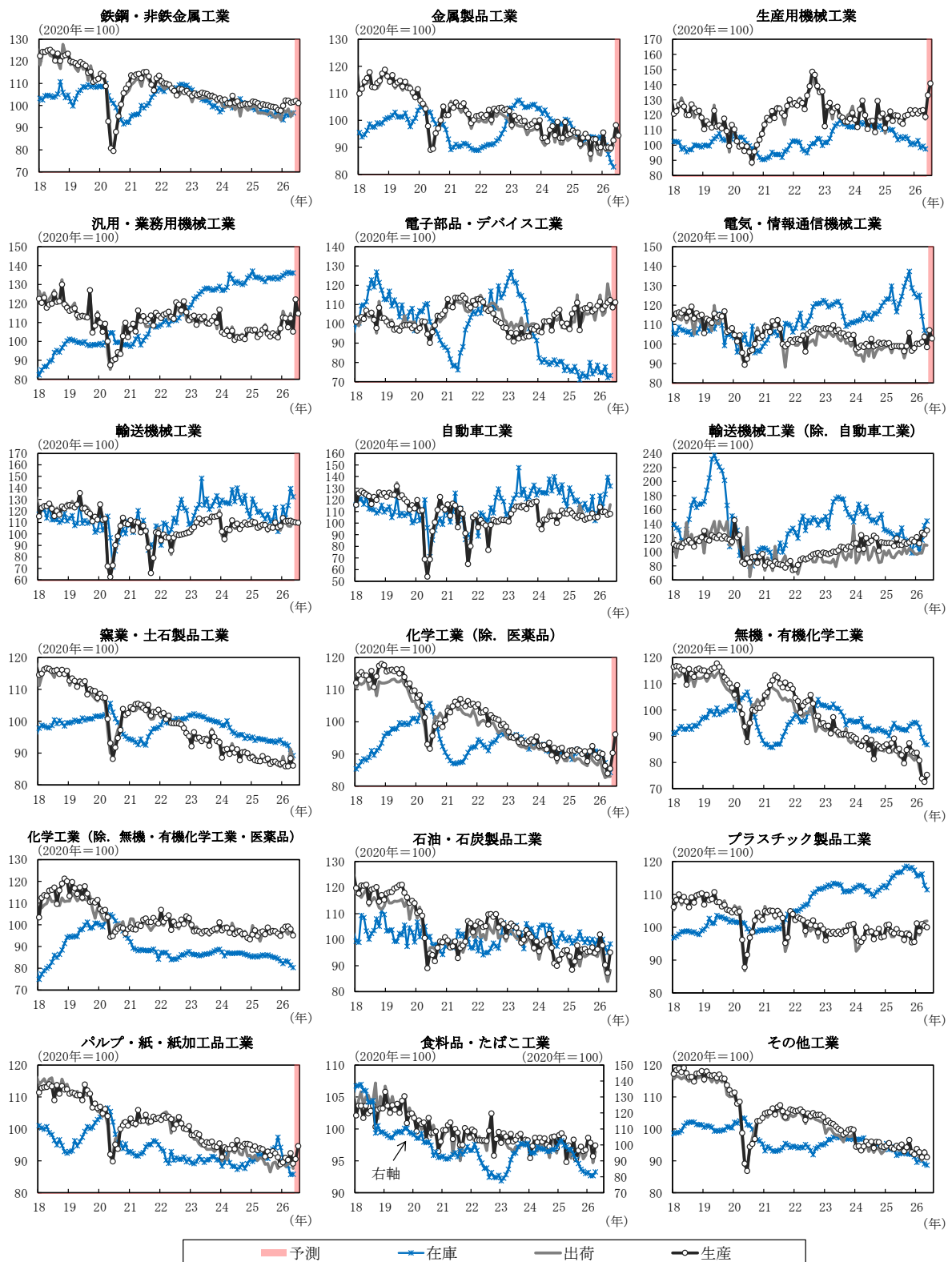
図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は横ばい圏で推移する見込み

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要などが国内生産の押し上げ要因となろう。ただし、中東情勢の緊迫による供給制約や当該地域向けの輸出の停滞などが、当面の間は下押し要因になり得る。

AI 関連需要の拡大は 2024 年から日本国内の生産を押し上げてきており、今後も下支え要因となる見込みである¹。世界半導体市場統計 (WSTS) の 2026 年春季半導体市場予測によれば、半導体市場は 2026 年に前年比+89.9%、2027 年に同+26.6%と高い伸びが見込まれている²。

6 月 15 日に、米国とイランの双方は戦闘終結に向けた覚書に合意した旨を発表し、ホルムズ海峡の開放が進む兆しが見られたが、その後も両国間で攻撃の応酬が続き、中東情勢をめぐる不確実性は依然として残っている。本稿執筆時点で双方の攻撃は停止され、ホルムズ海峡の開放をめぐる協議が再開される見通しが報じられているが³、ホルムズ海峡が通行可能になるには一定の時間がかかるだろう。原油や石油製品の代替調達が進んでいるものの、供給不安は残る。供給不足に伴う買いだめ等が発生すれば価格は一段と上昇し、原材料不足を通じて、生産の減少につながる可能性がある⁴。

また、中東向け輸出の停滞を通じた減産の可能性にも注意が必要だ。物流の混乱は中東向け輸出にも影響し、中東情勢の悪化前はホルムズ海峡周辺国への財輸出の半分を自動車に占めていた。日本の自動車産業にとってホルムズ海峡の通航が制限される影響は大きい⁵。

製造工業生産予測調査では、6 月の生産指数は前月比+3.7%と増産が見込まれている。業種別では 11 業種中 9 業種が上昇する見通しだ。生産用機械工業 (同+12.1%) や汎用・業務用機械工業 (同+16.2%)、電気・情報通信機械工業 (同+8.8%) などの上昇が見込まれている。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値 (最頻値)⁶で見ると、6 月は同+2.6%と上昇が見込まれている。

7 月の生産指数は横ばいの前月比 0.0%となる見込みだ。業種別では 11 業種中 6 業種が低下する見通しだ。汎用・業務用機械工業 (同▲6.1%) や電気・情報通信機械工業 (同▲4.0%)、その他 (同▲2.5%) などの減産が見込まれている。他方で、生産用機械工業 (同+5.8%) や化学工業 (同+6.4%)、電子部品・デバイス工業 (同+2.4%) などで増産が計画されている。

¹ 詳細は、神田慶司・秋元虹輝・菊池慈陽・横田凱「[日本経済見通し：2026年6月](#)」(大和総研レポート、2026年6月23日)を参照。

² WSTS「[Global Semiconductor Market Surges Beyond \\$1.5T 2026](#)」(2026年6月2日)

³ 「[攻撃の応酬続いた米・イランが停止で合意、カタールで協議再開へ…『ホルムズ』認識すり合わせが中心に](#)」(読売新聞 オンライン、2026年6月29日)

⁴ 詳細は、畑中宏仁「[ナフサ問題がもたらす日本経済の不安要素](#)」(大和総研レポート、2026年6月15日)

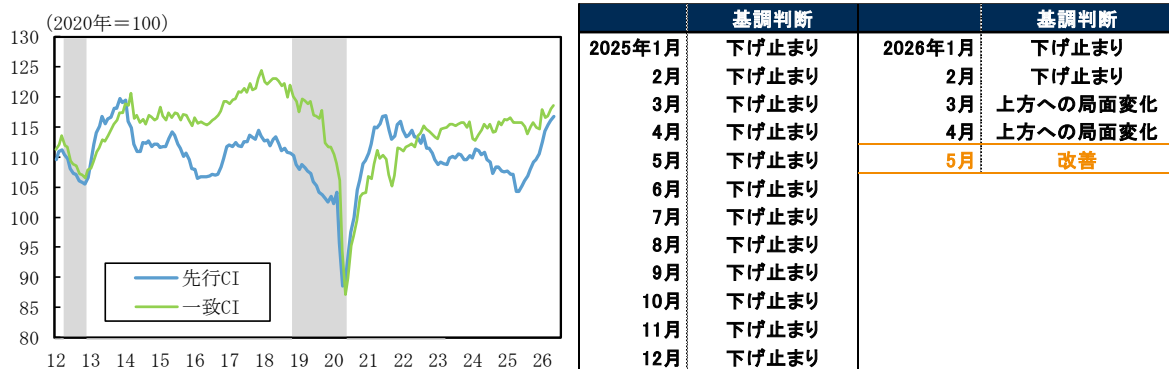
⁵ 詳細は、畑中宏仁「[中東向け乗用車輸出の激減は日本経済のリスクとなるか](#)」(大和総研レポート、2026年6月19日)

⁶ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値 (最頻値) が公表されている。

【26年5月景気動向指数】先行CI、一致CIともに上昇を見込む

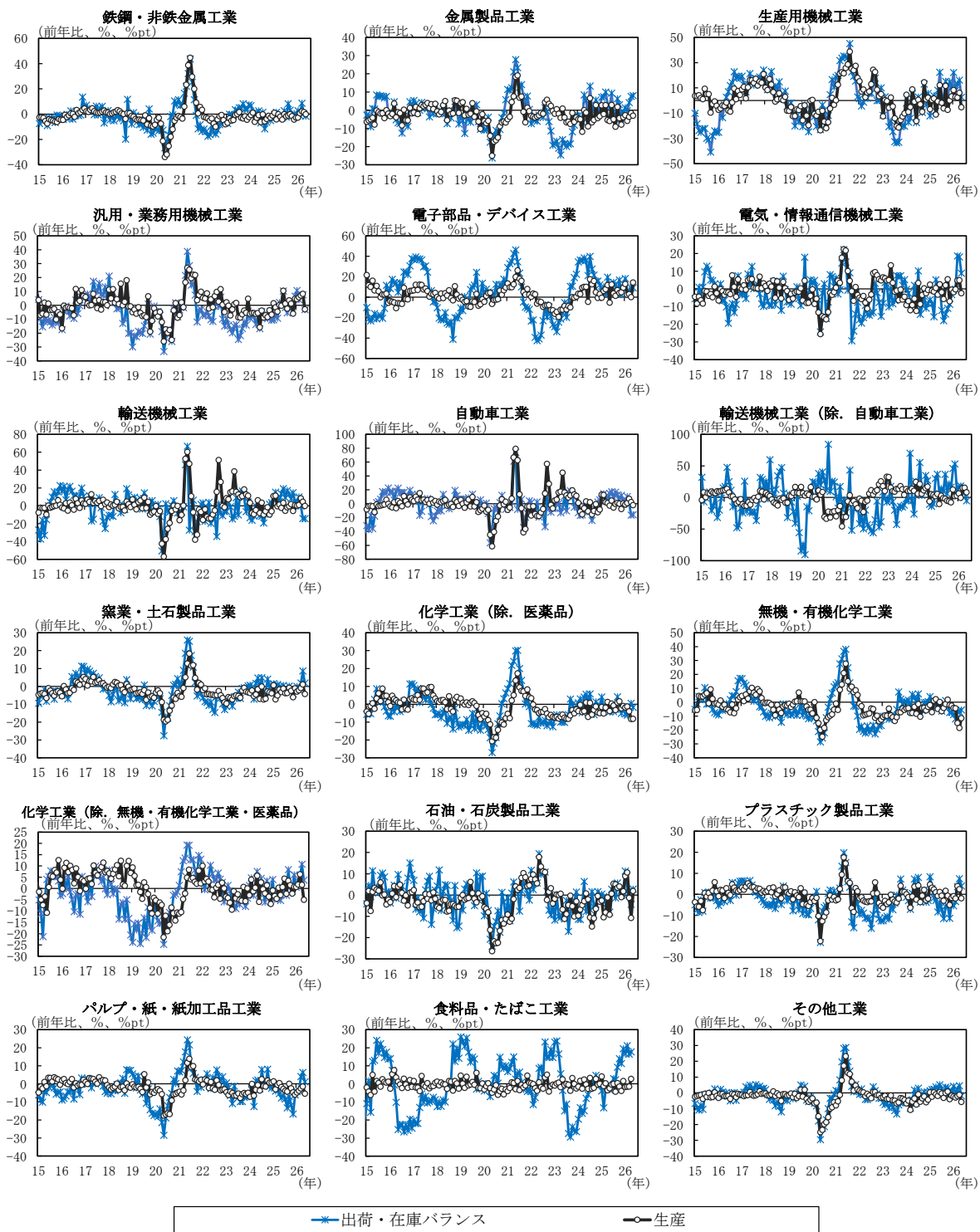
鉱工業指数の結果を受けて、2026年7月7日に公表予定の5月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+0.6ptの116.7、一致CIが同+0.4ptの118.5と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、消費者態度指数や日経商品指数（42種総合）、マネーストック（M2）（前年同月比）などが前月から改善した。一致CIでは構成指標のうち、耐久消費財出荷指数や商業販売額（小売業）（前年同月比）、鉱工業用生産財出荷指数などが改善した。この予測値に基づく、2026年5月の基調判断は機械的に「改善」に上方修正される。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。2026年5月の基調判断は大和総研予想。
（出所）内閣府統計より大和総研作成

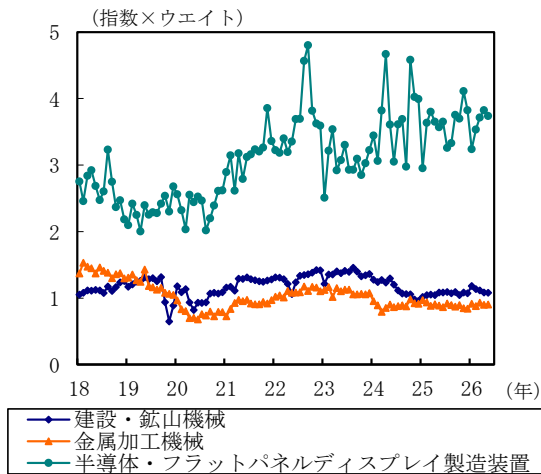
業種別 出荷・在庫バランスと生産



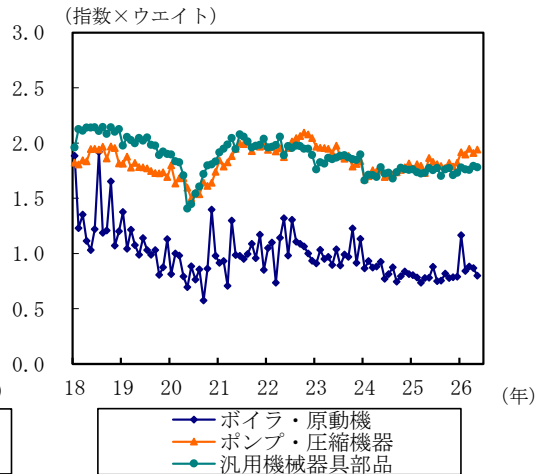
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。
 (注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

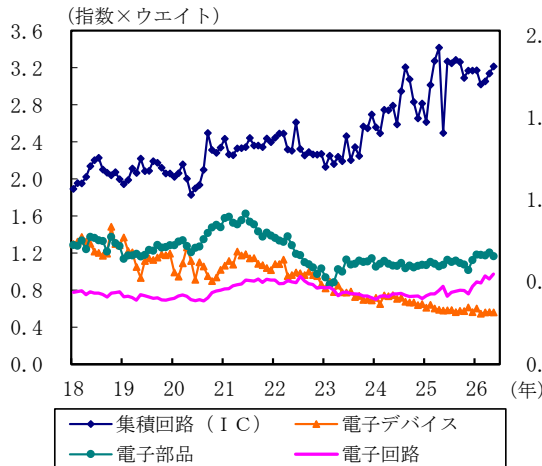
生産用機械



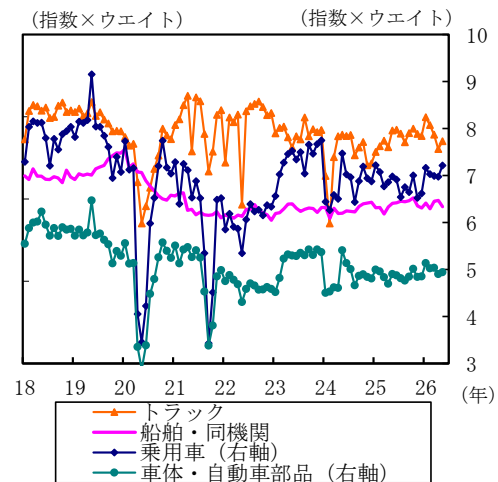
汎用・業務用機械



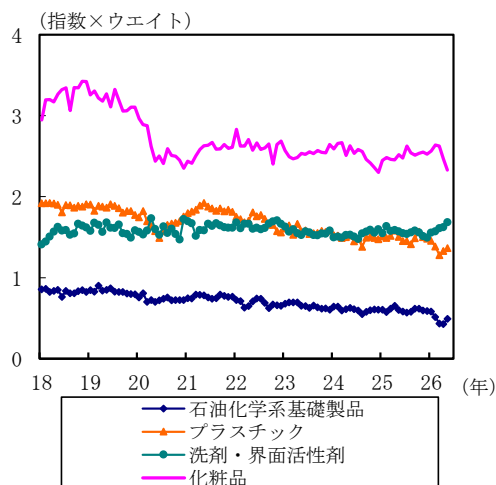
電子部品・デバイス



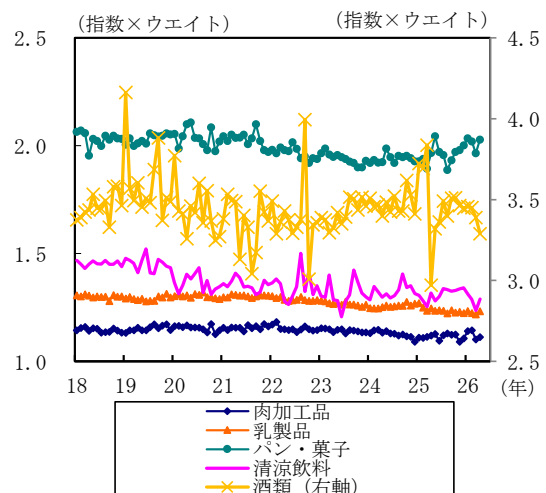
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成